

特集「新しい幕別の歴史を訪ねて」より



若山 牧水の歌碑

町民文芸

まぐべつ

第3号・1987

放浪の歌人・若山牧水が幕別町を訪れたのは、大正15年10月のことであった。

当時42歳だった牧水は喜志子夫人を伴い帯広に宿泊しようとしていたが、思いがけず東隣の札内にある黒田温泉に泊まることとなった。

黒田温泉は、今のあかしや団地を抜けて途別川に架かる吐月橋を渡ってすぐに左に折れた所にあった。

一夜を過ごした牧水は朝起きてふと外を見て驚いた。前日にはこの荒れ果てた宿から逃げ出そうとしていた彼は旅館のそばを流れる途別川の清流、白雪の十勝岳、石狩岳がすっかり気に入り5日間の滞在を楽しんだ。

その時のことを永久に記録しようと、昭和12年5月にゆかりの地黒田温泉の裏庭に歌碑を建設。

昭和48年に移設され、現在は幕別温泉前の公園に置かれている。